

大村はま国語教室における学習経験の蓄積

— 1975年度入学者の学習記録に基づく調査研究の観点—

甲 斐 伊 織

1. 本調査の目的

大村はまの授業実践のいくつかは、『大村はま国語教室』（筑摩書房，1982年～1985年，以下，大村全集）の各巻に収められた単元の記録の数々でその実際を知ることができる。そしてそれらは長く国語教育実践や研究に影響を与えてきた⁽¹⁾。たとえば読書指導や古典指導に関わる単元の構造については精緻な研究が蓄積されてきている⁽²⁾。その一方で，近年では大村全集に掲載された個別の単元を『国語教室通信』（大村全集資料編，筑摩書房，1985年）や学習者が作成した学習記録（鳴門教育大学附属図書館大村はま文庫所蔵）などを用いて，大村が担当した期間のカリキュラムに位置づける試みが行われており，現在では1966年度入学者と1972年度入学者が経験したカリキュラムがほぼ明らかになってきている⁽³⁾。それによって，ある単元が先行する単元を前提とした展開であることや，一つの単元として完結しているものがその後の単元の準備ともなっていることについての理解が可能になった⁽⁴⁾。すなわち個々の単元は重層的な構造を持っており，大村全集における個々の単元の理解のためには，カリキュラム全体の中にそれらを位置づけ直してみることの有効性がこれらの研究によって示唆されたのである。本調査は，同様の資料を用いて1975年度入学者のカリキュラムをこうした研究の動向に位置づけようとする点に目的の一つがある。

同一学習者集団の受け持ちの起点から終点までを一つのサイクルと名付けるならば，1975年度，1976年度は大村が最後の持ち上がりを経験したサイクルである。この二年間には大村全集に収められた「いきいきと話す」，「白銀の馬」，「読書人の基礎能力を養うために」，「中等新国語二を読む」，「このことばづかいをどう考えたらよいか」，「古典への門」などの単元が実施されている。本調査はその時系列における位置づけの理解を可能にする。それは2008年版学習指導要領において課題とされるスピーチや対話，読書生活，編集，物語の創作，伝統的な言語文化等に関わる単元の構想に際して，検討を要する観点を示唆するはずである。

本調査のもう一つの目的は1975年度入学者が経験した単元を，すでに明らかにされた他の入学年度のカリキュラムにおける単元と対比することによって新たに意味づけることである。先の方法を「縦軸からの検討」と考えるならば，この方法は「横軸からの検討」ということができるだろう。具体的な例は次項に示すが，ある領域に着目するならば，サイクル間の関係には以下のようなことがありうる。

- A 一つのサイクルには存在するが、別のサイクルには存在しない。
- B 二つ以上のサイクルに存在するものの、その内容と方法には差異が認められる。
- C 二つ以上のサイクルに存在し、内容と方法はほぼ共通している。

これらの場合、それぞれの異同に対する解釈の加え方によって単元の理解の仕方は異なることになる。それは大村研究においても、今日の国語教育が必要とする授業実践の構想においても新たな観点をもたらすことが期待される。

2. 「横軸からの検討」の観点

1966年、1972年、そして本調査が明らかにした1975年という三つのサイクルから成る「横軸からの検討」によって見出される異同は多岐にわたるが、ここでは読書生活指導、書くことの指導、そして大村国語教室への入門単元の構成に認められる顕著な特徴を指摘する。これらについて、各サイクルの対比によって見いだされたA～Cの類型に分類し、それぞれに解釈を加えることが前項で述べた期待に応えるための手がかりになると考えられる。

(1) 読書指導に関する単元の構成と位置づけ

大村はまは1966年度から1970年度までの5年間、月に2、3時間ずつ用いて「帯単元『読書』」という学習指導を続けていた。その概要は大村全集の第8巻に記されている。大村はその実践内容を「一 読書について考える、二 本を探す・選ぶ、三 読書の技術、四 本の活用、五 感想を育てる、六 読書生活の記録、七 読書会、八 読みを誘う」の八種に分類している（14-15頁）。これらの実践と、1972年度や本資料が示す1975・76年度の実践は一部において重なるものの、すべてが行われているわけではない。たとえば「読書について考える」、「読書の技術」はこの二つのサイクルでは行われていない。それに対し「読書会」については、1972年度入学者は第三学年二学期に単元「外国人は日本・日本人をこのように見ている」で、1975年度入学者は第二学年二学期に単元「各国に生きる現代の子どもたちの姿」で経験している。しかし、「読書会」として位置づけられるそれぞれの単元の内容や展開の仕方には大きな差がある。この意味でBの類型に相当するのである。

教科書単元に即してみると、1966年入学者は教科書に基づく授業を各学年にわたって数時間ずつ経験しているが、他の年度の入学者はそのような経験をしていない。よってこれは、Aの類型に相当する。

(2) 書くことの学習指導の構成と位置づけ

書くことの学習指導のうち、創作指導が大村はま国語教室のカリキュラムにおいて明確に位置づけられるのは1972年度入学者からである。この年度の入学者は第二学年一学期において、3時間規模の「雨の子五郎ちゃん」「五色のしか」という創作活動の経験を経て、三学期に約10時間の規模の「五つの夜」が実践されている。それに対し1975年度入学の学習者は、第一学年の一学期末に2時間規模の「灯台とハマナデシコ」、二学期冒頭に3時間規模の「空中ブランコ乗りのキキ」に基づく創作

活動を行ったうえで、二学期に約18時間規模の単元「白馬の馬」を経験し、以後の学年も第一学年で「旅の絵本」という創作単元を経験している。学年が下がると同時に単元の規模が拡大している点でBの類型に相当するといえるだろう。

意見文の指導に関しては、1966年度入学者は第二学年の一学期と三学期に経験し、1972年入学者は第二学年の三学期に5時間の規模で経験している。しかし1975年入学者のカリキュラムに意見文の指導は位置づけられていない。よってこれはBの類型に相当する。

(3) 入門単元の構成

大村国語教室への入門単元は、1972年からのサイクルも75年からのサイクルも、その内容は類似している。しかも78年、そして退職の年にあたる79年も、その内容に大きな変化は認められない。よってこれは、Cの類型である。このことは72年の段階で、大村にとっての入門単元の指導内容はほぼ定着したとする解釈が可能である。そしてこの単元を分析することは、大村はま国語教室に向けた入門的な指導内容を知るために重要な手がかりを与えることが期待される。

1972,75,78,79年度には、教科書に掲載されている文章の朗読発表会を入門単元として行ってきた大村であるが、常に文章の朗読がその題材であったのではない。1966年度と1977年度には、語彙の使用場面を題材とした単元「語句の使い方」と「一つの言葉がいろんな意味でつかわれている」を実践している。すなわちこの大村教室への入門単元の題材もまた、Cの類型であるといえる。

注(1) 橋本暢夫(2001)『大村はま「国語教室」に学ぶ—新しい創造のために』溪水社、6章

(2) 石津正賢(2003)「大村はま国語教室における読書生活指導の研究」『国語科教育』54号、全国大学国語教育学会、板東智子(2011)「大村はまの年間カリキュラムに位置づく入門期古典学習指導」同前『国語科教育』69号

(3) 山元悦子(1994)「単元学習による国語学習カリキュラムの構想」『月刊国語教育研究』日本国語教育学会264号、甲斐雄一郎(2003)「『大村はま国語教室』における学習の軌跡—1974年度卒業生の学習記録に基づく調査研究」人文科教育学会『人文科教育研究』30集、同(2004)「『大村はま国語教室』における読書指導の軌跡—1968年度卒業生の学習記録に基づく調査研究」同前『人文科教育研究』31集

(4) 甲斐伊織(2010)「大村はま国語教室における書くことのカリキュラム—昭和48年度実践『意見を書き合う』に着目して」全国大学国語教育学会『全国大学国語教育学会発表要旨集119』、同(2011)「入門期における『話し合い』の指導内容—大村はま国語教室における入門期の単元分析を通して—」同前『全国大学国語教育学会発表要旨集121』

資料編・凡例

- ・本資料には授業日・授業回数・単元名・授業内容を記した。
- ・授業日・授業回数・授業内容は、学習者が作成した学習記録によるものである。
- ・すべての期間の学習記録が比較的多く残されていることから第一学年はA組、第二学年はE組の記録によった。
- ・複数の資料を参照しても記録が見つけれなかった期間は空欄にしてある。
- ・単元名の下に付した番号は、当該単元に関する言及がある全集の巻数及びその章数である。
- ・授業内容に記されている「/」は、実際の学習記録では改行していることを表す。

一年次 昭和 50（1975）年度 A組			
日付	回	単元	授業内容
414	1		一、私は あの人は この人は / 二、お話 1「はい」と 2 一度で聞く
418	2 3		一、学習記録を見て
419	4		読書生活の記録用意
421	5		読書生活の記録用意 続き
422	6		一、国語教室通信について
423	7		一、「読書日記」の書き方 / 二、まわして読む本 / 三、題材集めについて 四、読みたい本を書く
426	8 9		一、教科書を見る / 二、便覧を見る / 三、文法の本を見る
430	10	朗読発表会	一、お話「さん」と「くん」 / 二、朗読会 1 この新鮮な気持ちを 2 グループごとに朗読の発表をする
506	11		一、通信 4 号を読む / 二、朗読の練習
507	12		一、自習「やさしい漢字教室」8～15 ページ
510	13 14		一、読書生活の評価 / 二、通信を読む / 三、朗読を練習する
511	15		一、話し合いの進め方
513	16		一、話し合いのしかた / 二、朗読の録音を聞く
514	17		一、話し合い 朗読会について
517	18 19		一、自習について / 二、話し合い / 三、テストについて
520	20		一、記録を整える / 二、発表会の準備
521	21		一、プリントの書き方 / 二、グループで準備
524	22 23		一、日程
526	24		毛筆習字（文字四宝の点検）
527	25		中間テスト
531	26 27		朗読発表会 第一、二、四、五グループ
602	28		毛筆習字
603	29		第三、四グループ
604	30		一、テストの答案を見て お話
607	31 32		朗読発表会 七・八・九・十グループ
609	33		話し言葉教室（季節とことば）楠本謙吉
610	34		一、朗読発表会から学んだこと 作文
611	35		一、「書こう話そう」学習準備 1 まず読む 2 いいのを選ぶ
613	36		一、「書こう話そう」資料の作成
614	37 38		一、「書こう話そう」 / 発表の内容を豊かに
616	39 40		一、発表資料の作成
617	41		一、通信の読み方を確かめる / 二、発表の練習
618	42		一、資料を整える / 二、発表の準備
620	43	一、発表方法の確認	
621	44	一、喜びたいこと、考えなければいけないこと / 二、クリちゃんのことば 三、表すことの大切さ / （自分の存在を知らせる、自分の努力を大切に）	
623	45	一、毛筆書写（風光）	

Ⅲ
2 「書こう話そう」
（「書こう話そう」）

624	46		一、発表、こういうふうにしたかな
625	47		一、クリちゃんのおはなし -発表-
628	48	学習記録の編集	一、集める（一） / 二、学習記録の作成（目次の作り方……よい目次）
49			三、作文の点の意味 上（内容）中（書き方）下（表記）
630	50		毛筆習字（風光の提出）
701	51		一、索引の作り方 / 二、記録を仕上げる
702	52		一、記録の仕上げ
705	53		テスト
707	54		一、毛筆書写（真実）
708	55		一、記録のしあげ
709	56	白銀の馬導入	一、お話を書こう（灯台とハマナデシコによって）
712	57 58		一、お話を書こう 1 灯台とハマナデシコ 2 ? (ママ)
714	59		一、暑中見舞い
714	60		一、夏休みの国語学習について / 二、発表
717	61		一、夏休みの学習 続き
902	62		一、夏休みの学習の始末 / 二、二学期の学習の準備
902	63	白銀の馬導入	一、作文「空中ブランコ乗りのキキ」別役実作（前文あらすじ）
904	64		一、みんなの「空中ブランコ乗りのキキ」（作文を読む）
906	65		一、もう一作書く「空中ブランコ乗りのキキ」
908	66		一、ひらがなを美しく
909	67	学習記録について学ぶ	一、学習記録について学ぶ / よい目次、問題のある目次、私の目次
910	68		一、学習記録のあとがきによって考える
913	69		一、学習記録のあとがきから学ぶ
913	70	白銀の馬 6 I	一、「白銀の馬」でこんなふうにも勉強しよう / 二、本を見る
916	71		一、さあ、よい作品を / 制作日記のこと、仕上げのかたち、提出日
917	72		一、「白銀の馬」制作
920	73		一、「白銀の馬」進める
922	74		一、自分の名の練習
923	75		一、読書生活通信の愛読者になろう
927	76		一、「白銀の馬」思いでになるようないい作品にしよう
77			読書生活の記録（読んだ本と読書ノートは読んだら書く）
929	78		一、文化（書写）
930	79		一、予定の確認 / 二、作品にかかる
1004	80		一、ものを出すということ / ものを出すということは大切なこと
81			やらないことは一人前じゃない
			二、作品を少しでもよいものに / 「よい」とは すじをはっきり・出る人物の性格をはっきりと
1006	82		一、文化（書写）
1007	83		一、白銀の馬 力作にしよう
1008	84		一、作品に挑む いどむとは
1011	85	一、いよいよ力をしぼって	
86		文化（書写）	
1013	87	文化（書写）	
1014	88	一、急がば回れ 落ち着いて書く 豊かに書く	
1015	89	一、作品 少しでもよいものに、少しでも豊かに（報告の提出）	
1018	90	中間テスト	
1020	91	一、プリントを書く	
1021	92	一、プリントを書く	
1023	93	一、プリント仕上げ	

1025	94 95	本を知る窓 基礎能力を養うために 7I（読書人の基	一、本を知る窓 中学生は本を探せなければいけない。本を知る。本を選ぶ。
1027	96		一、本を知る窓を開こう（まず出版案内の窓）
1027	97		一、本を知る窓 推薦の言葉や評を読んでみよう
1029	98		一、案内パンフレットでわかったことを本にあたって考えてみる。
1030	99		一、本を知る窓を一つあけて（研究授業）
1101	100		一、研究会のこと / 二、今日は100時間め
1104	101		一、本を知る窓をひとつあけよう
1108	102 103		一、本を知る窓 まとめ / 「この本をこういう人にすすめよう」 よんな考えの人、どんな生活の人・・・ / 題「私の推薦文」
1111	104		一、「白銀の馬」まとめ 「私たちの白銀の馬」
1115	105 106		吉田先生の授業
1117	107		一、私たちの白銀の馬 作文
1118	108 109	書写	
1119	110	一、私たちの白銀の馬 仕上げて提出	
1122	111	一、読書生活の記録 1 もっとていねいに 2 これからは全部を書く / 3 切り抜き 4 書き抜き	
1122	112	一、表記の復習 / 二、学習記録のまとめ	
1125	113	一、「読む人をよむ」学習の準備 二、学習記録 テストについて、目次・あとがきについて	
1126	114	一、「読む人をよむ」進め方のたしかめ / 民話を読む カードをとりながら 読書の記録 はしがき この民話を読むまえに / 解説の一 民話 尾なしぎつね	
1129	115 116	一、文節と文の成分	
1204	117	一、きょうはたくさん読もう / カードの取り方を確かめて	
1205	118	期末テスト	
1206	119 120	学力テスト	
1208	121	一、今日はぐんぐん書き進める。 / カードをとる	
1210	122	書き初めの練習	
1211	123	一、本を読み進める / テストについて / 白銀の馬について	
1215	124	一、話し合いのしかた / 二、話し合いの準備 発表練習	
1216	125	書写	
1217	126	一、話し合い A・Bグループ	
1220	127 128	一、話し合い C・D	
1223	129	一、話し合い E・A・B・C	
1224	130	一、話し合い D・Eグループ	
112	131	一、三学期に備えて 二、記録の整理 1 文献を探す 2 本を知る窓 3 文法 / 4 表記 5 集める (1) (2) 6 教科書のよい文を拾う (朗読会) 7 作文 (文集)	
113	132	書写	
114	133	一、通信を生かすくふうを加えよう / 二、「本を知る窓」	
116	134	一、「本を知る窓」読み進める / はさむテープにどこについてのものか書いておく	
117	135 136	一、「風土記」を読み進める	
120	137	一、できるだけ読み進めて報告する	
		一、録画の予定と準備 / 二、「文献探索」の準備	

121	138 139	(一)読書人の基礎能力を養うた 本を知る窓 7 I	(読書人の基礎能力を養うために) 7 I	一、放送について復習 / 二、文献の探索
121	140			一、「風土記」を読み進める このかたの推薦されているとおりだ① / こんなこともよい私なら推薦したい②
124	141			一、文献探索
124	142			一、発表 / この方の推薦の言葉通りのところがありました もっとこんな点も推薦したいと思います。
126	143			細筆書写
128	144			一、文献探索 / 提出 ことばについて考える 「風土記」の発表 / 「迎える」「促す」
129	145 146			一、文献 一種でも多く
131	147		一、文献探索のまとめ / 二、空中ブランコ乗りのキキ お話の続きは 三、次の単元の用意	
202	148	集める (一)(二) 9 III (一)「おりおりのことば指導」	一、集める (二) 準備	
203	149		一、このことばがこんなふうに使われている。	
204	150		一、このことばがこんなふうに使われている。	
207	151 152		NHKのアナウンサーによるインタビュー	
209	153		硬筆書写 詩を書く	
210	154		自分の予定を書く	
214	155		一、今日の予定 自分の予定を書く	
	156		一、今日の予定	
216	157		一、集める (二)	
217	158		一、仕上げに向かう	
218	159		一、集める (二) プリント下書き	
221	160 161		一、あとの予定の確かめ / 二、大切な準備は / 三、パネルディスカッション	
223	162		一、プリントの内容をまとめる	
224	163		一、討議の準備 / じゅうぶんな準備こそ討議の命	
225	164		一、この例はどの分類にはいるか / 「地面が崩れ、深い落とし穴が皆を迎えた」	
226	165	一、討議 これはどの例に 「銀河のほとりにいくつかの散開星団を視野に迎えて楽しもうと、夏の夜空が更けるのを待つ」		
	166	一、討議これはどの分類に 「そよ風がつゆに濡れた若い羊歯の強い香りをのせてふたりを迎えた」		
301	167		テスト	
304	168		テスト	
306	169 170	私の編集 10 II	一、「中等新国語一」によって作る / 1 一つの主題で作品集を作る (編集) 2 「国語学習事項索引」を作る (作成)	
308	171		二、主題を探りながら読む「針路、西」	
309	172		一、主題を探りながら読む「少年の日の思い出」 / 二 朗読の準備 三、索引の作成	
310	173		一、朗読 全員「杜子春」	
313	174 174		一、朗読 女子「赤毛のアン」 / 二、朗読 男子「宮沢賢治」	
316	176		一、学習記録のこと / 二、「私の編集」まとめ	
317	177		一、まとめる「私の編集」「索引」	

二年次 昭和 51（1976）年度 E組			
日付	回	単元	授業内容
408	1		一、学習準備 / 1 決意 2 「読書生活の記録」の整備
412	2		一 (1) の時間の記録の確かめ 二、読書生活の記録 1 整備, 2 内容の確かめ
415	3	10 II 「国語学習事項索引」作成	一、読書生活の記録 書き方・内容の確かめ
416	4		二、学習準備の二 / 「中等新国語二」の学習事項索引の作成…本の活用のために
419	5		前の時間の感想から / 一、事項索引を作ろう 本の活用のために
420	6		一、感想を発表する / 二、索引の作成
422	7		一、記録の整え（自習）
426	8		一、(7) の時間の報告と確かめ / 二、索引のカードをとる
427	9		一、索引カードを終わる / 二、実習・練習の時間の内容 三、語句カードの扱い / 1 ナンバーの付いた語句, 2 慣用句や呼びあうことば
427	10		一、索引の仕上げ
427	11		
430	12		
506	13	「中等新国語 二」を読む —この視点から— 10 II	一、聴写「シンガポールのお正月」 / 二、行書を覚える 三、書き入れながら味わう
507	14		一、それぞれの研究について / 1 方法を考え計画をたてる 2 日程を決める 二、計画によって進める
510	15		一、今日の予定 書き出しと結びを書く / 少年について調べるなど
511	16		一、今日の予定 書き出しを書く結びを書く
511	17		
513	18		一、形を整えたいひらがな / 二、行書 三、作文 お話に書き継ぐ（インドのお話・ある日ねずみが〜）
514	19		一、今日の予定 分類…書き出し
519	20		一、学習記録のこと（見出しをつけよう）
519	21		二、今日の予定（カードを書き続ける）
520	22		一、敬語の使い方 / 二、形を整えて書く / 三、糸へんのくずしかた 四、話を聞いて要旨を書く（大意・要点・要旨） / 五、要点を表にまとめる
521	23		一、テストについて / 二、分類 教科書を読む
524	24		一、予定の確かめ 二、比較 / （美を求める心、サーカスの馬、の書き出し・結びの比較）
526	25		一、本を読む（サーカスの馬を読んで）
526	26		二、書き出しの比較（サーカスの馬、美を求める心）
531	28		一、文学作品との比較 / 二、説明文・意見文との比較
602	29		一、文学作品との比較
603	30		
603	31		一、説明文と意見文
607	32		一、下書き
609	33	一、前書き / 二、後書き / 三、思ったことをまとめる	
609	34	四、残りのを仕上げでプリント / 五、見直す	
611	35	一、資料を生かして / 1 他のグループに質問を提出する。 2 発表の準備（資料のはじからはじまで言わない。見たこと読んでわかることは言わない） / 聞く身になる	
614	36	一、資料を見、質問や希望の事項をまとめる / 1 類義語・対義語	
615	37	一、発表の準備	
615	38	はじめのことば、始話、疑問点、気づいたこと、おわりのことば、進行	
617	39	一、「中等新国語二」を読む / 1 少年の姿に視点をおいて 2 固有名詞に視点をおいて	

618	41			一、研究発表「中等新国語二」を読む / 1 文末表現に視点をおいて 2 複合語に視点をおいて
621	42			一、研究発表「中等新国語二」を読む / 1 文章の冒頭と結びに視点をおいて 2 「符号」に視点をおいて
623	43 44			一、研究発表「中等新国語二」を読む / 1 類義語・対義語に視点をおいて 2 写真、挿絵、図表などに視点をおいて
624	45			一、読書計画 1 計画のたて方 2 立案 / 擬人法・比喩に視点をおいて 二、発表資料・発表の向上のために
625	46			一、研究発表「中等新国語二」を読む / 1 漢語に視点をおいて 2 カタカナで書かれた語句に視点をおいて
	47			一、研究発表「中等新国語二」を読む / 1 類義語・対義語に視点をおいて 2 固有名詞に視点をおいて
630	48 49			一、研究発表をさらにりっぱにするために / 二、復習
702	50			一、テスト
707	52 53			一、予定 / 二、学習記録のまとめ / 三、読書について考える
708	54			資料欠（他クラス（A組）は毛筆書写など）
709	55			
712	56			
713	57			
714	58			一、スピーチ / 二、夏休みの学習について
715	59			一、「本の利用」の学習 / 本を使って「注」をつける・学習の進め方 二、表紙に内容紹介を書く
715	60			一、表紙に紹介を書く
716	61			一、私の紹介文は 二、どのことばに「注」をつけようか 三、ここに「注」を
903	62			一、報告 1 読んだ本 2 文集について / 二、読書生活の記録の確かめ 三、読んだ本について話し合いの準備のしかた
908	63	夏休みの読書について 語り合う会		一、談話（中止） / 二、読書会「夏休みの読書について語り合う会」準備 1 内容 2 資料プリント
909	64			一、読書会 佐野「ホームズ」井出「地球最後の日」 小池「老人と海」、渡辺「愛の旅立ち」ら9名
913	65			一、読書会 / 和田「流れる固体」、山田「歩いて出会った六大陸」、 岸田「ふたりのイーダ」、吉沢「ゴーシュ」
916	66			一、読書会 若月「火星への道」、前山「罪と罰」ら7名
917	67			一、読書会 北原「ひとすじの道」ら
920	69			一、「各国に生きる現代の子供たちの姿」 / 学習の進め方 予定
922	70 71	子どもたちの姿 7 II 各国に生きる現代の		一、各自で読む 少しでも多く / 記録 1 視点の表 2 カード
924	72			一、各自で読む
927	73			一、各自で読む
929	74			一、少しでも多く読もう。カードの記入も
	75			一、予定を確定する。 / 二、読み続ける。
930	76			一、どんどん読む。
1004	77			一、少しでも多く読む。
1012	78			一、「ここに視点をおいて」 / 自分の案を立てる
1013	79 80			一、「この作品はここに視点をおいてみたら」 / わら半紙に案を書き、時間の終わりに提出
1015	81			一、中間テスト

1018	82	一、「発言のいろいろ」を学ぶ / 「いけない」「いい」と考えない そう思ったと言った方がいい / 相手の話をよく聞いて応じる 何か言われたら必ず口を開く 二、話し合いの準備
1019	83	一、話し合い準備（ふれあい）
	84	一、話し合い（ふれあい）練習的に
1020	85	一、「ふれあい」ということに視点をおいて世界の子どもの生きている姿を考える にはどの本を主な材料にしようか。
	86	一、次の準備
1022	87	一、「なぞをとく・探検」「おとなの世界にふみこむころ」の 問題に視点をおいて世界の子供の生きている姿を考えるにはどの本を主な材料 にしようか。
1025	88	1 おとなの世界にふみこむころ / 2 いどむ
1026	89	一、話し合い / 二、私の案をまとめる
1027	90	自習（本を読む）
1029	91 92	一、「この視点から考えるときはこの本を」 二、「こんな場面で各国の子どもたちが / ○どうするか○なんというか」考えたい
1101	93	一、選ばれた本 / 二、場面の付け加え
1105	94	テストについて（話し合い） / 本を読み足す
1108	95	一、こんな場合にどうするだろう、なんと言おうだろう / どこからか来た少女
1109	96	一、こんな場合にどうするだろう、なんと言おうだろう（話し合い） (1) 7 明生と良二、アレン中佐のサイン
1110	97 98	一、こんな場合にどうするだろう、なんと言おうだろう（話し合い） (1) 5 いっせいに花咲く町 / (2) 2 クローディアの秘密
1112	99	一、こんな場合にどうするだろう、なんと言おうだろう（話し合い） 明生と良二 / (3) 5 新ロビンソン・クルーソー / (3) 8 ジョコンダ夫人 の肖像 (7) 3 愛の旅立ち
1115	100	一、こんな場合にどうするだろう、なんと言おうだろう（話し合い） (3) 8 モモ・クローディア / (7) 3 いっせいに花咲く町 一郎
1116	101	一、こんな場合にどうするだろう、なんと言おうだろう（話し合い） (7) 6, (6) 1, (8) 4
1117	102 103	一、学習の成果をしっかりと書き残そう
1119	104	一、まとめの文章をゆたかに書こう
1122	105	一、内容のゆたかな重みのある作品にしよう
1124	106 107	一、しっかりと書き上げる。
1126	108	一、「古典への門」枕草子
1129	109	一、予定と復習
1130	110	一、ことばあそび / こんなめあて、こんなふう
1201	111	期末テスト
1204	112	学力テスト
1206	113	一、ことばの力のつく楽しい遊びを考えよう
1207	114	一、アイデアを出し合おう・そだてあおう
1208	115 116	一、「ことばあそび」を作ろう / 力のつく たのしいのを
1210	117	一、ことばあそびを作る
1213	118	答案を返すにあたって / 一、「言葉遊び」をつくる
1214	119	一、ことばあそび 1 この場面にはどんなことわざ？ 2 熟語作り

ことばあそび
私たちの作った
9 I

1215	120 121			一、このことばづかいをどう考えたらよいだろうか 学習の進め方・グループ作りをして席を決める
1217	122			一、準備（自習）アンケートについて クラスの中で
1220	123			
1221	124			一、学習記録の作成について
1222	125 126			一、ことばあそび仕上げ / 二、作ったのであそぶ（交換して） / 一、プリント
1224	127			一、ことば遊び仕上げ
110	128			一、書き初め 清書
112	129 130			一、学習記録の向上のために / 二、書き初めについて 三、三学期の予定 / 四、各国に生きる現代子どもたちの姿 まとめ
113	131			一、作文 題材を集める / いろいろな目の付け方 個人文集に載せる作文（やさしい文章教室 P27・P8 を読んで）
114	132			一、学習記録の提出 / ことばのゲーム
117	133			一、インタビューのために / どんな資料を用意しようか
119	134			一、話の内容と順序 / 資料を加える方法
	135			一、アンケート 1 説明・質問、2 各自の答え
120	136			一、アンケートのまとめ
121	137			一、記録の練習
124	138			一、インタビューの練習 / 尋ね方、記録、報告
125	139			一、記録・報告の練習
126	140			一、準備と練習
	141			本番（命令の時に「ください」を使うのはおかしいというのをきいた）
127	142			一、このことばづかいをどう考えたらよいか / (1) 倉沢 (2) 古矢弘 (3) 先生 (4) くん 二、インタビューの経験から学んだこと
131	143			欠課
202	144			自習 一、やさしい文章教室 50～91 すきなところから読む
	145			自習 一、やさしい文章教室 始めからやる 文章を書く
203	146			自習一、「身体語彙による表現」プリントをとじてなおす
204	147			自習一、語源を楽しむ
207	148			一、「古典への門」として 枕草子を読む / 1 学習の進め方 2 読む
209	149 150			一、てびきを見直す / 二、分担のところをよむ
210	151			一、読む
214	152			一、読み進める カード 朗読分担
216	153 154			一、ぐんとはかどらせよう / カード（同感）を書く
217	155			一、調べることが156で終わるように進める。
218	156			一、読む練習 カードの内容を豊かに
221	157			一、まとめの文章を書く。
223	158 159			一、今日は大いに進めよう。できるだけ内容を豊かに
224	160			一、今日は書き上げよう。
225	161			一、テストに備えて復習
228	162			枕草子 朗読会
302	163			期末テスト
304	164			学力テスト

305	165	ことばの学習 「切る」91	一、一つのことばがこんなにもいろいろな意味で働く / その一つのことばは「切る」一人一つの意味。場面を考える。場面を話しては言葉を当て合う。
309	166 167		一、お話を作る / 二、話し方練習
314	168		一、「切る」は「切る」でもこの「切る」は？
	169		自習一、「語源のたのしみ」によって語源を楽しむ。
316	170 171		一、ことばの学習のまとめ / 二、あとの予定・提出 三、学習しなかった単元のあらまし / 四、学習記録まとめの用意 / 五、テストの始末